



令和5年7月1日(土) 静岡学園中学校・高等学校にて

「出前講義：大学の薬学部や薬剤師について」

「くすり教室：実験講座～薬学生と一緒に学ぼう!～」

(共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO))

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO) の協力の下に、地域の方々や学生に「くすり」や「薬物乱用」のことを知ってもらう授業や体験実験を行っています。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により愛知県内の施設を中心に活動を行っていましたが、令和5年度からは愛知県外での活動を再開し、名城大学 Enjoy Learning プロジェクト (通称：Eプロ) の学生と共に2回目の活動を行いました。

静岡学園中学校・高等学校 (鈴木啓之校長) の学び支援課課長 和田典久先生のご尽力により、令和5年7月1日(土)、静岡学園中学校・高等学校にて「出前講義：大学の薬学部や薬剤師について」「くすり教室：実験講座～薬学生と一緒に学ぼう!～」を下記の内容にて開催しました。参加した中・高校生は薬剤師の役割やそれを育成する薬学部の講義内容に興味を示しながら、なぜ研究が重要なのかについて「くすり」と食品との相互作用に関する体験実験を通じて、その理解を深めていました。

静岡学園中学校・高等学校における出前講義 「大学の薬学部や薬剤師について」

日時：令和5年7月1日(土) 13時30分～14時15分

場所：静岡学園中学校・高等学校 視聴覚室

内容：

・「出前講義：大学の薬学部や薬剤師について」

「薬学部で学ぶこと」「薬剤師の役割」「薬学部の研究室で行う研究」について、名城大学薬学部 野田幸裕教授 (NPO J-DO 副理事長) が講義を行いました。参加した静岡学園の中・高校生 59 名に対して中学校、高等学校で学ぶ知識と薬学部での知識がどのようにつながるのか、それらの知識を臨床で利用した薬物療法の理解を科学的に深めるためには、研究 (実験) が重要であることを説明しました。「薬剤師の役割」として、様々な「くすり」について学んできた薬剤師は安心して安全な薬物治療を提案し、適切に「くすり」を使用してもらうために AI (人工知能) を利用するだけではなく、「人の温かみ」をもって患者対応する必要があることを説明しました。「薬学部の研究室で行う研究」については、実験動物や臨床検体、培養細胞を用いた研究の必要性について、動画や研究結果を用いて説明しました。参加した生徒から「薬剤師にはコミュニケーション能力が必要であることを知ることができました。」「医療系の仕事に興味が湧きました。」「実験動物の気持ちを行動で評価していることに驚きました。」と感想を頂きました。

制作：Eプロ (名城大学薬学部病態

解析学 I：森川和那、野田幸裕)

監修：NPO J-DO



静岡学園中学校・高等学校における「くすり教室」

日時：令和5年7月1日（土） 14時25分～15時00分

場所：静岡学園中学校・高等学校 化学実験室

内容：

・「体験実験」

静岡学園の中・高校生40名が10グループ（1グループ4名）に分かれて参加しました。学部5年の加藤拓真がスライドを使用して、実験の目的、「くすり」と食品との相互作用が、中学校、高等学校で学んだ化学からどのようにして起こるのかを説明しながら体験実験を行いました。体験実験では、野田幸裕教授、Eプロの薬学生（5年生3名）が補助しました。参加した学生は、薬で「どうしてうがい薬の色が変化したのかな？」「どうしてオレンジジュースが泡立ったのかな？」とグループ内で話し合いながら理解を深めていました。

＜実験項目＞

実験1：シロップの「くすり」と「お茶」を一緒に飲むとどうなるのでしょうか？

実験2：「うがい薬」でうがいをした後に、

すっぱい食品を食べるとどうなるのでしょうか？

実験3：オレンジジュースで胃痛を和らげる薬を飲むとどうなるのでしょうか？

